

# 1. 評価結果概要表

作成日 2008年3月3日

## 【評価実施概要】

事業所番号	4075400376		
法人名	有限会社 ハートケア なごみ		
事業所名	グループホーム なごみ		
所在地 (電話番号)	〒807-1311 福岡県鞍手郡鞍手町小牧字西牟田1969 (電話)0949-43-1753		
評価機関名	非営利活動法人 北九州シーダブル協会		
所在地	福岡県北九州市小倉北区真鶴二丁目5-27		
訪問調査日	平成20年2月20日	評価確定日	

【情報提供票より】(20年 1月 13 日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成18年3月1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	8 人	常勤 7 人, 非常勤 1 人, 常勤換算 7 人	

### (2) 建物概要

建物形態	併設 <input checked="" type="checkbox"/> 単独 <input type="checkbox"/>	新築 <input checked="" type="checkbox"/> / 改築 <input type="checkbox"/>
建物構造	木造平屋造り 1 階建ての 階 ~ 1 階部分	

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	管理費 12,000 円
敷金	有( ) 円	無 <input checked="" type="checkbox"/>	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( ) 円	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	1日 1,000円		

### (4) 利用者の概要(1月13日現在)

利用者人数	9 名	男性 1 名	女性 8 名
要介護1	4 名	要介護2	1 名
要介護3	4 名	要介護4	0 名
要介護5	0 名	要支援2	0 名
年齢	平均 84.4 歳	最低 75 歳	最高 97 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	鞍手町立病院 ヤマチカ歯科
---------	---------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

遠くに山並みが繋がり、周辺は田んぼに囲まれ、自然に溢れた環境のなかに、グループホームなごみがある。玄関を入ると大きな窓から光が差込み、ホーム全体が落ち着いて穏やかである。町内会にすっぽりと溶け込んで、いろいろな行事に積極的に参加し、ホームの庭を開放したり、野菜の差し入れなどがあるなど地域との交流が盛んである。家族の訪問も多く、特にホームの行事や家族会開催時の昼食会バイキングは豪勢で好評である。職員も交代が少なく利用者も馴染みの職員と穏やかに共に暮らしている様子が伺える。管理者の自立支援を基本に利用者ができることはしてもらうという考えのもと、積極的なリハビリ体操を取り入れ、入居時に嚥下困難のため、きざみ食の利用者が今では普通食を楽しまれている。地域の方が将来このホームを利用したいと希望されるような信頼のおけるグループホームである。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回評価の改善点は4件である。管理者、職員の努力で半分は改善できている。今後の課題として「地域密着型サービスとしての理念」、「運営に関する家族等意見の反映」、「職員を育てる取り組み」、「同業者との交流を通じた向上」、「災害対策」等の取り組みが望まれる。</p>
	<p>外部評価の意義を理解し、自己評価は職員、管理者が一緒に行い改善に向けて取り組んでいる。運営推進会議でも意見交換が行われている。</p>
重点項目	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)</p> <p>運営推進会議は定期的に行い、行政、地域の区長、利用者、家族 職員の出席によりホームの現状報告と利用者の1日の流れなどに対する意見交換が行われている。ホームの運営に関する改善点も議題にし、第三者からの意見の聴取も望まれる。</p>
重点項目	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)</p> <p>家族会において家族からの意見は多く出るが、苦情は出てこない。気軽に苦情が言える関係作りと、介護相談員など第三者の介入も必要である。現在、町に介護相談員派遣制度はないが、行政との連携を強め、介護相談員派遣制度の創設を働きかけ、利用者や家族からの意見や苦情を聞き運営へ反映することや、苦情を積極的に活かしていく姿勢も望まれる。</p>
重点項目	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>利用者も近くの方が多く、職員も比較的ホームの近くに住んでいて、地域との連携は出来ている。町内会の行事、特に夏の盆踊りなど練習から本番までホームの庭で行われている。日常でも野菜の差し入れ等の訪問があり、町内会では特別会員であるが、町内会長が町の情報やお知らせのため訪問されるなど地域に密着したホームである。</p>

## 2. 評価結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「家庭的な環境と、地域住民との交流のもとで」という地域密着型のグループホームの理念の中で、地域住民との交流の部分が入っていない。		地域の中でその人らしく生活することを支えることを具体化した理念を取組むことが望まれる。
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念を朝のミーティングの時に唱和し、職員が共有し、実践に取り組んでいる。		
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会には加入していないが特別会員として区長さんとの連携、ホーム便りの回覧など地域の一員として地元に関与している。地域の行事には積極的に参加し、ホームの庭を盆踊りの会場に開放したり、地域の方から野菜の差し入れがあるなど交流は盛んである。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価や外部評価を実施することの意義を職員が理解し、今回の自己評価も管理者と職員が一緒に行った。前回の評価の結果は町にも報告し改善に取り組んでいる。評価を受けたことにより、改めて見直す機会になった。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的な運営推進会議が行われている。今回の議題は、活動報告と、個別外出の回数や、町の介護課長から外出時の大気汚染の注意など、活発な意見が出されている。		
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者や運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議の参加と、町の介護教室への講師派遣、ふれあいフェスタへの参加など、共にサービスの質の向上に取り組んでいる。町の介護保険課の担当者と気軽に相談出来る関係である。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
7	10	権利擁護に関する制度の理解活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	現在該当者はいないが、外部研修会に積極的に参加し、成年後見制度について、必要なときは家族に説明できる体制である。相談機関の理解も出来ている。		
4. 理念を実践するための体制					
8	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族に毎月の利用料金を持参してもらい、暮らしぶりや金銭管理、受診の様子を報告している。近隣に住まいの家族が多く来訪が頻繁である。定期的にはホーム便りを発行し送付している。		
9	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱の設置、訪問時の話などでコミュニケーションをとっているが、年2回の家族会のときも、「お世話になっています」の言葉はあるが不満や苦情は出ない。		家族の不満や苦情が言いづらい心情を理解し、なんでも気軽に言える関係作りが望まれる。また町に介護相談員制度がないことから、行政に働きかけて相談員の派遣など、第三者との連携も望まれる。
10	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動が少ない。開設時からの職員が多く、入居者と職員との信頼関係が出来て、職員同士も穏やかである。		
11	19	人権の尊重 法人代表者及び管理者は職員の募集採用にあたっては性別や年齢などを理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きと勤務し社会参加や自己実現の権利が十分に保障	職員の採用時には性別、年齢の制限は行っていない。職員の自己実現が出来るようなローテーションを組み生き生きと勤務できる体制になっている。		
12	20	人権教育・啓発活動 法人代表及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員などに対する人権を尊重するために、職員などに対する人権教育、啓発活動にとりこんでいる	県のグループホーム協議会に加入し、人権研修の研修会に参加し、ミーティング時に伝達講習を行っている。		今後、町主催の人権研修への参加も望まれる。
5. 人材の育成と支援					
13	21	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部の研修会に参加し、伝達研修会を行っているが、グループホーム独自の内部研修会の機会が少ない。		法律や制度が新設されたり改正されたりしているので、ホーム独自の研修計画を立て実行していくことが望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
14	22	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県のグループホーム協議会に参加し研修を積んでいるが、地域の中のグループホームとの交流がない。		グループホームは地域に密着した介護サービス事業である。地域のなかでネットワークづくりや、相互訪問し、お互いに地域の実情を共有し合い地域に密着した取り組みが望まれる。
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	28	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	ここ一年間利用者の入れ替わりがない。過去には、利用者や家族の方の訪問などで、ホームに馴染んでもらったの入居であった。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	29	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	自立支援を念頭に利用者が出来ることはしてもらうことを基本にしている。利用者と職員が共に暮らす関係を作り、花の育て方や、昔から伝わることわざなどを学んだりお互いに支えあう関係を築いている。		
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
17	35	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の生活歴や家族との話し合いから利用者の暮らし方や希望を把握している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	38	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者と家族の意見や希望、職員の意見が反映された介護計画が作成されている。		
19	39	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	基本は3ヶ月に1回、変化が生じた場合はその都度見直ししている。ミーティングで、入居者の変化や、対応について話し合い、利用者や家族の意見も取り入れて見直しが行われている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
20	41	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	美容師の資格を持った職員が、利用者の希望に応じ、理・美容の支援を行っている。馴染みの理・美容院を希望する利用者には要望に対応している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
21	45	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者や家族の希望に対応している。グループホームの協力医との連携も出来ているが、ターミナルケアに協力してもらえるかかりつけ医との連携を模索している。		
22	49	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期のあり方について現在考慮中である。家族や利用者の希望、医療との連携、職員の能力など、利用者、家族、職員と何度も繰り返し話しあっている。		
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
23	52	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者の誇りやプライバシーを損なうような対応はされていない。車椅子利用者のトイレ誘導などもさりげなく行われている。個人の記録の取り扱いも適切に行われている。		
24	54	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ホームの基本的な決まりはあるが、急な外出希望、入浴の時間など希望に添って一人ひとりのペースを大切にした対応がなされている。		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	56	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員は、利用者と一緒にテーブルで同じ食事を楽しみながら食している。食事の準備や後片付けなど利用者の状況に応じて、利用者も職員と一緒に楽しんで行っている。食材は納入されているが、今後、安全の面から地域の方からの野菜の購入も予定している。利用者は馴染みの器を使用し、時にはビールや梅酒なども楽しんでいる。		
26	59	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は、一日おきに行っているが、利用者の希望に対応している。利用者の身体的レベルが比較的高いため思い思いの時間帯が確保され、利用者は入浴を楽しんでいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	61	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	食事作り、庭の花壇の手入れ、習字の得意な利用者など一人ひとりの喜びや楽しみごとが出来るように支援している。玄関や居間などに掲示してある理念の字は習字の得意な方の作品である。		
28	63	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩、週1回の外食など、利用者の状態に応じて支援している。		
(4)安心と安全を支える支援					
29	68	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	夜間のみ施錠している。利用者が鍵を開け外出されるが、夜勤者の気配りで大事に至ったことはない。		
30	73	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署との合同訓練は行っているが、夜間の地域の方に協力を得た避難訓練はなされていない。		地域の方との連携体制が出来たホームであるので、夜間を想定した訓練を実施することが望まれる。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31	79	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個別記録が充実しており、利用者の栄養の摂取量や水分の摂取量が把握されている。入居時はきざみ食を食われていた利用者が職員の支援により普通食に代わる等、利用者の状況を把握した自立支援が行われている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
32	83	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関を入ると広々とした居間があり、大きな窓からは光がさんさんと入り気持ち良く、山々が見渡され、周りには田んぼが広がり田植え、たわなに実った稲の刈り取りなど季節感が味わえる環境である。		
33	85	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は広々としていて、利用者の使い慣れた家具や椅子、仏壇などが持ち込まれている。居室は個性的で思い思いの写真や趣味のものが持ち込まれて居心地良く過ごされている。家族の宿泊部屋は用意されていないが、居室が広く利用者と一緒に宿泊できるようにしている。		